

## [講演要旨]

# 明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について(その4)

久永哲也\*(1)・内田篤貴(1)・浦谷裕明(2)・小川典芳(2)・武村雅之(3)・都築充雄(3)

(1)日本物理探鑛株式会社 (2)中部電力株式会社 (3)名古屋大学減災連携研究センター

## §1. はじめに

筆者らは、東海地域における明応年間の津波被害について現地調査を行ってきた(既報告 ~その3)。

これまでの調査では、東海地域における明応年間の被害記述の現地調査や、南海トラフの1498年明応地震津波(「明応地震津波」と記す)の発生日として知られる明応七年八月二十五日とするものの他、明応七年六月十一日の地震津波を区分するなど、「明応地震津波」の全体像について検討してきた。

本研究は、既報告に引き続き、「明応地震津波」に関し、震源・波源の広がりへの検討として、東海地域の西方にあたる紀伊半島および東方にあたる伊豆半島以東における明応年間の津波被害を中心に現地調査を実施した結果を報告するものである。

## §2. 経過報告

### ①紀伊半島

#### <新宮市(田鶴原館, 阿須賀神社)>

『熊野年代記』に「明応七年八月廿五己卯熊野大地震(中略)宮崎丹鶴原ノ館ヲ崩ス浦々浪人新宮鐘楼堂ヲ崩ス」と記している。

ここで、「宮崎丹鶴原ノ館」は熊野別當である宮崎豊後が居住していた館で(『新宮市誌』など)、明応当時この館は、現在の新宮城跡である丹鶴原付近にあったとされることを山崎氏よりご教示頂いた。

また、「新宮鐘楼堂」については、『熊野年代記』の明応九年の項に「飛鳥社釣鐘在寄進」とあるように、阿須賀神社のことと考えられるが、江戸時代に書かれた阿須賀神社の絵図に鐘楼堂が描かれていることが確認できた。

#### <和歌山市・広川町(広八幡神社, 三船谷)>

和歌山市では、明応年間における複数の寺社の移転の口碑があり、その要因を明応の海嘯とするものもあるが、原史料は確認できなかった。

和歌山市に程近い広川町では、矢田(1991)によると、明応年間の被害として、『感恩碑の由来』に「八幡の石段三段まで浸し、井関の三船谷まで海水が行った」とする口碑がある。この『感恩碑の由来』をみると、当該口碑は、文明七年のこととされるとともに、この文明七年の口碑は明応七年のことか、ともされている。

このように、今回の調査では、これらの口碑を「明応地震津波」とする明確な根拠は確認できなかった。

### ②伊豆半島以東

#### <鎌倉市(段葛)>

『鎌倉大日記』では明応四年八月十五日の鎌倉における津波被害を記している。

『鎌倉大日記』の津波被害記述から窺われる被害の様相については浪川(2014)などで推定されている。浪川(2014)によると津波は若宮大路の段葛に至ったとされている。現在の段葛は、明治初年の一部撤去により短くなったものであり、以前は「浜の大鳥居」まで続いていた(石碑「段葛」碑文より)。また、「浜の大鳥居」は、現在の一の鳥居より北に200m程の所にある遺構「浜の大鳥居跡」に位置していたと考えられ(「浜の大鳥居跡:沿革」など)、明応当時、段葛はこの遺構「浜の大鳥居跡」まで続き、津波はここに到達したものと考えられる。

#### <鴨川市(誕生寺)>

『千葉縣安房郡誌』では明応七年八月二十三日の誕生寺を含む長狭郡の被害を記している。『千葉縣安房郡誌』は大正年間の成立で、当該記述の引用として『内浦繪圖面』を挙げているが、この『内浦繪圖面』については不詳で、日付の根拠は不明である。

明応当時の誕生寺は、『千葉縣安房郡誌』によれば、蓮華潭と呼ばれる地にあったとも、妙の浦(現在地)の海辺よりであった(萩原他(1989))とも言われ、明確には分からないが、いずれにせよ海辺の堂舎が流失するような被害を受けたものと考えられる。

上記伊豆半島以東の被害を記述した史料における日付が「明応地震津波」の発生日とは異なることと共に、本調査による被害様相をもとにした、被害要因に関する筆者らの検討(浦谷他(2015))からは、伊豆半島以東における明応年間の被害は、南海トラフの「明応地震津波」によるものではないと考えられる。

## §3. 終わりに

明応年間の津波被害について現地調査した結果を報告した。紀伊半島東側の新宮では、「明応地震津波」による被害であると考えられるが、紀伊半島西側では、明確なことはわからなかった。また、伊豆半島以東は、南海トラフの「明応地震津波」による被害ではないと考えられる。これらのことから、「明応地震津波」の震源・波源の広がりとしては、東海地域を中心に、東側に伊豆半島以東を考える必要は無く、西側は紀伊半島東側まで少なくとも被害を与えるものと考えられる。今後も、「明応地震津波」の全体像について総合的な検討を行っていく。

## 謝辞

調査にあたり、情報提供並びにご指導いただきました山崎泰氏はじめ新宮市立図書館の皆様、広川町教育委員会の平井氏、誕生寺ご住職には深く感謝いたします。